

日向市教育研究所

I	研究主題と副題	3-3-1
II	主題設定の理由	3-3-1
III	研究目標	3-3-1
IV	研究仮説	3-3-2
V	研究構想	3-3-2
VI	研究内容	
1	児童の実態把握と考察	3-3-3
	(1) 読書と勉強に関するアンケート	3-3-3
	(2) 学習計画	3-3-4
2	日常的な読書活動を充実させるための工夫	3-3-5
	(1) 読み聞かせ	3-3-5
	(2) 家読	3-3-5
	(3) 図書祭り	3-3-6
	(4) 6年生に読み聞かせ	3-3-6
3	国語科の授業の工夫	3-3-8
	(1) 読み取りのスキル	3-3-8
	(2) 児童の日記を活用	3-3-8
	(3) 個別指導の工夫	3-3-9
VII	成果と課題	3-3-9
○	参考文献	
○	研究同人	

I 研究主題と副題

読む力をそなえた児童の育成
～日常の読書活動や授業を通して～

II 主題設定の理由

小学校に入学してすぐの1年生。1年生の学習は平仮名を読むことから始まる。書くことを学ぶ上で読むこと、読めることは最重要事項である。読めなければ、書くことはできない。その点から読むことは学習において大きな影響があると考えられる。

学習指導要領解説国語編の「C読むこと」の「ウ 文字に関する事項」には次のように明記されている。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

このことから漢字の習得は書くことよりもまずは読むことに重きを置いていることが分かる。すなわち、初めて文字を学習する1年生にとって、平仮名の学習は漢字の習得と同様の内容であると捉えられる。これらのことから、1年生にとって読む力は、最も大切な力であると考えられる。また、昨年度1年生を担当した際に、入学時から文字に苦手意識やつまづきのある児童は、1月のCRTテストの結果は国語、算数ともに平均点を大きく下回り、学習をする上で読む力を伸ばすことは大きなことであると実感した。

私は、今年度も1年生を担当している。平仮名の読みがたどたどしい児童もおり、教科書の音読にも時間を要している。そのような実態の中、1学期の読むテスト「どうやってみをまもるのかな」の単元テストと学期末テストに臨んだ。単元テストの平均点は88.2点で最低は80点であった。学習の中での読み取りや毎日の読み声による成果で、全体の点数は大差なかった。その一方で、学期末テストは、平均点79.2点で最低点は20点であり3人もいた。その3人の読み取りは、必要のない言葉や解答と無関係の言葉を抜き出したり、そもそも抜き出すことができなかつたりと三者三様であった。発達の段階の差が大きい1年生にとって、時期的なものや特別な支援の必要性があるかもしれないが、どのようなことが要因であっても児童の読む力を伸ばすことは大切なことである。

これらのことから、日常的に読書活動を充実させ、児童が文字に触れる機会を多くするとともに国語科の学習で読み取りのスキルをきちんと押さえ、児童の学習意欲や読む意欲が高まる問題提示や学習活動を実践することを通して、読む力をそなえた児童を育成するための在り方を究明したいと考え、本主題を設定した。

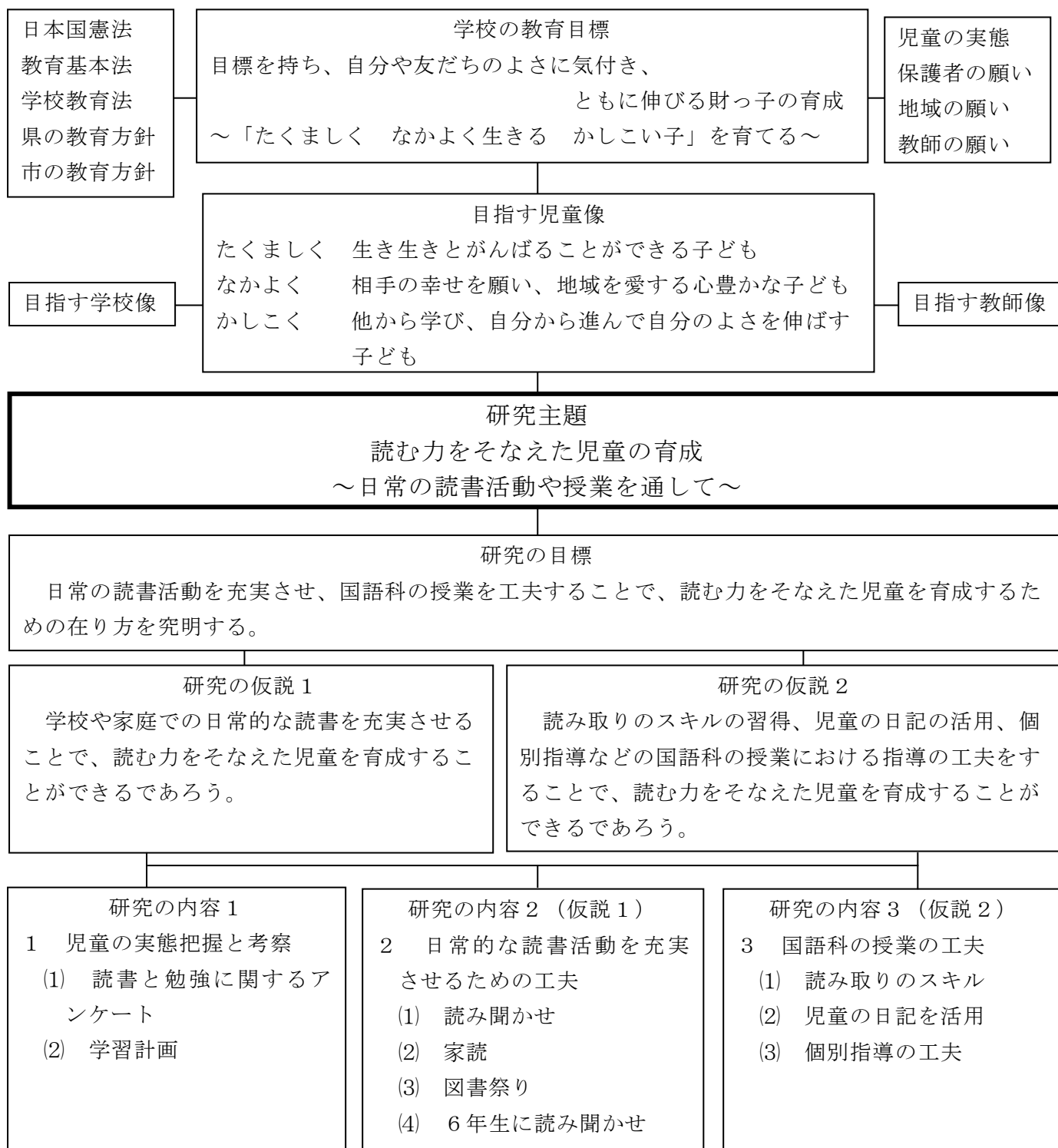
III 研究目標

日常の読書活動を充実させ、国語科の授業を工夫することで、読む力をそなえた児童を育成するための在り方を究明する。

IV 研究仮説

- 学校や家庭での日常的な読書を充実させることで、読む力をそなえた児童を育成することができるであろう。
- 読み取りのスキルの習得、児童の日記の活用、個別指導などの国語科の授業における指導の工夫をすることで、読む力をそなえた児童を育成することができるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

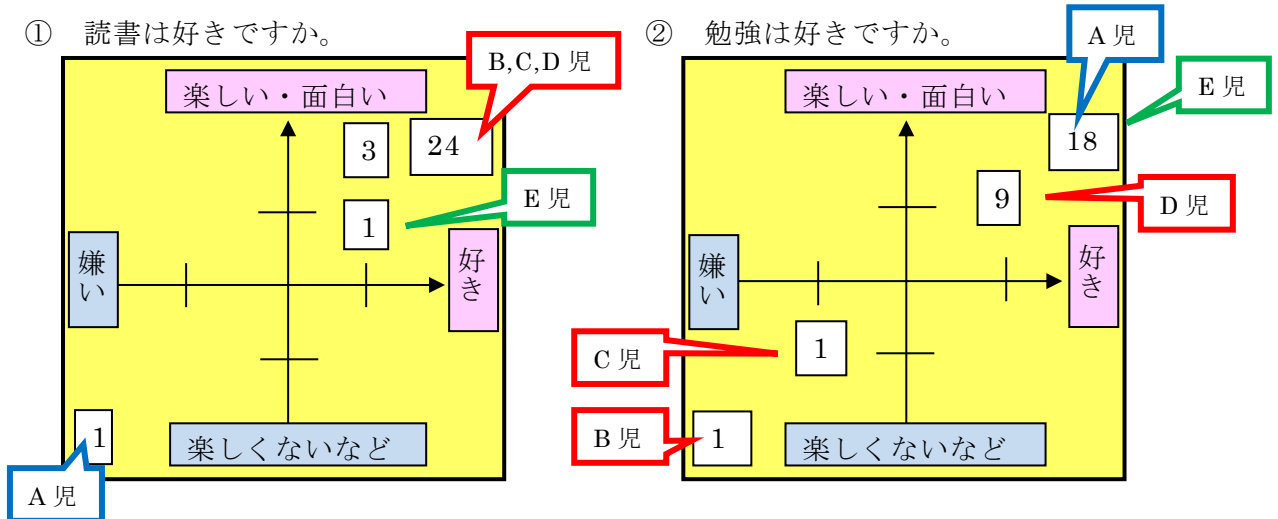
1 児童の実態把握と考察

(1) 読書と勉強に関するアンケート

平仮名の学習を終えた7月に、学級の児童（男子17名、女子12名、計29名）に読むことにつながる読書と勉強に関するアンケートを行った。アンケートの内容は、以下のとおりである。なお、児童の実態に応じて、回答は全て選択式にした。

質問内容	回答
① 読書は好きですか。	好き・どちらかという好き・どちらかという嫌い・嫌い
② それはなぜですか。	楽しいから・面白いから 楽しくないから・面白くないから・字がよめないから
③ 勉強は好きですか。	好き・どちらかという好き・どちらかという嫌い・嫌い
④ それはなぜですか。	楽しいから・面白いから・できるから 楽しくないから・面白くないから・字がよめないから

アンケートの結果は以下のとおりである。□の中の数字は人数である。



本学級29名中24名が読書は好きと答えており、そのほとんどは勉強も好きと答えていた。しかし、アンケートの結果から読書と勉強の相関関係が見られない児童や教師の見取りと相違のある児童が5名（A児～E児）いた。それぞれの児童の実態は次のとおりである。

<相関関係が見られない児童>

- A児は、読書は嫌いと答えている。学力が高い方で、勉強は好きと答えている。
- B児は、読書は好きと答えている。面白くないから勉強は嫌いと答えている。
- C児は、B児と同様、読書は好きと答えているが、楽しくないからどちらかという勉強は嫌いと答えている。

<見取りと相違のある児童>

- D児は、読書は好きと答えている。ひらがなを読むことがたどたどしく、読むことに苦戦している。
- E児は、読書は楽しいからどちらかという好きと答えている。

A児は、B児、C児と読書と勉強の相関関係が逆になっている。B児もC児も学力は高い方で、授業中は発表し、プリントに進んで取り組んでいて、2人とも勉強は好きだろうと思っていたので、この結果には驚いた。D児が、読書が好きという結果は予想外だった。

また、学力はあまり高い方ではないが、勉強はできるからどちらかというところと好きと答えており、この結果も予想外だった。E児は朝の10分間読書の時間に進んで本を読んでおらず、図書室へ行っても本を2冊選ぶことができず、何も借りずに帰ることが度々あったので読書は嫌いなのかと思っていた。

これらのことから、学級全体の取組の中で5名の変容を追うことに焦点を当てると同時に、学力面で配慮の必要なD児、E児には個別の働きかけを行い、読む力をそなえた児童の育成を目指した研究を進めることにした。

(2) 学習計画

授業外		授業内	
行事等を生かした読書活動	日常の読書活動	指導内容	スキルアップの評価
7月		① 読み取りのスキル ② 問題に慣れさせる。	・ 単元テストや学期末テストの結果
9月	○ 家読 保護者に読み聞かせをしてもらう。	① 夏休みの日記を利用した読み取りの問題 誰が、いつ、どこを意識させる。 ② 問題に慣れさせる。	・ 運動会後の作文で誰が、いつ、どこを意識して書いているか。 ・ 保護者に読み聞かせをしてもらった感想 ・ 保護者の読み聞かせの感想
10月	○ 図書祭り ・ 読書郵便 紹介された本は読む。 ・ 異学年読み聞かせ 6年生に読み聞かせをしてもらう。	① サラダでげんき 誰が、何をしたを意識させる。 【りっちゃんへお手紙を書く】	・ 読書郵便を通して、選書できない児童の選書の様子の変容 ・ 読み聞かせの後の児童の読書の様子
11月	○ 「いろいろなふね」関連図書の並行読書 ○ ひらがなカード (D児個別指導)	① いろいろなふね 役目、つくり、できることを読み取らせる。 【のりものカード】 ② 挟み読み (D児個別指導)	・ 役目、つくり、できることを読み取ったのりものカードを書けているか。
12月	○ 「おとうとねずみチロ」の関連図書の読み聞かせを聞く。 ○ 6年生に読み聞かせをする。	① おとうとねずみチロ ・ チロがなにをしているか。 ・ すきなところはどこか。 【ビブリオバトル】	・ 自分の好きな本のおすすめのポイントを紹介できているか。 ・ 6年生に読み聞かせをした感想 ・ たしかめテストの結果 ・ 児童の選書の様子 ・ アンケートの変容

2 日常的な読書活動を充実させるための工夫

(1) 読み聞かせ

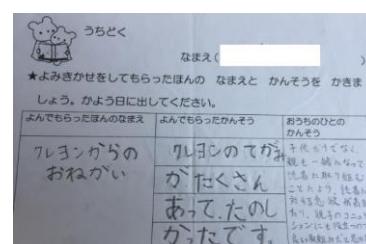
児童に本への興味をもたせるだけでなく、何を読んだらよいか分からない児童がたくさんの本と出会い、本を手にするきっかけになるように、定期的に読み聞かせを行った【写真1】。出席番号順に児童が選んだ本の読み聞かせをした。この方法により、友達がどんな本に興味があるのかが分かると同時に、その本に興味をもち、同じシリーズの本を読んだり、友達と交換して読んだりと読書の輪が広がった。また、自分が選んだ本の読み聞かせをしてもらうときは「この本にする。」など、自分の番が来るのをとても楽しみにしていた。



【写真1：担任の読み聞かせ】

(2) 家読

保護者には事前に通信でねらいとお願いを知らせ、9月末に学級で家読の取組を実施した。読み聞かせ当日、児童は保護者に読んでほしい本を図書室で選んだ。実施後は、家読シートに「①読んでもらった本の名前」、「②読んでもらった感想」、「③読み聞かせをした保護者の感想」を書いてもらった【図1】。



【図1：家読シート】

ア 児童の感想

読み聞かせをしてもらったA、C、D、E児の感想は以下のようである。(B児は家庭の事情により未実施)

	読んでもらった本	読んでもらった感想
A児	ちむどうだいをまもる	ちむは灯台を守ったのですごいです。
C児	あかいありとくろいあり	赤いありが黒いありに捕まってこれからどうなるのかなあと、思ってどきどきしながら聞きました。
D児	いもほりよいしょ！	うさぎ、ねずみ、ごりら、かば、もぐらの芋掘りが楽しそうで、芋が食べたくなくなった。
E児	わたしはあなたをあいしてる	ティラノサウルスは、言葉が分からなくても相手の気持ちがだんだん分かってきました。

イ 保護者の感想

A、C、D、E児の保護者だけでなく、他の保護者も家読に対して肯定的な意見が多く、学期に1回は取り組んでみたいと思った。

	読み聞かせをした感想
A児保護者	静かに聞けて、偉かったです。
C児保護者	いつもどんな本を選んで借りて来るのか楽しみにしています。絵本を借りる時は、親と妹も楽しめるようにと考えてくれているようです。これからも絵本を通して家族で楽しい時間を共有できたらいいと思います。
D児保護者	読んだ感想を伝えるのは難しかった様ですが、自分なりに考えて書いて良かったと思います。
E児保護者	本を読んであげると一生懸命聞いてくれました。これを機会に自分から進んで本を読んでくれるといいのですが。
その他の保護者	○ 2冊ともしかけ絵本でしたので、「次は何か？」と問題を出し合って楽しめました。 ○ 読んで感じた気持ちを文章にすることは、難しかったようで、毎日借りてくる本の感想を言い合いっこしてみようと思いました。 ○ 小さい時はよくしていた読み聞かせも小学生になると全くしていませんでした。今回をきっかけに継続していけたらいいなと思いました。

(3) 図書祭り

ア 読書郵便

読書郵便では、はがきに自分のおすすめの本を書き、友達や先生に紹介する取組で、本校で始めて7年目になる。はがきの表には自分の名前、相手の名前、クラスだけを書き、裏にはおすすめしたい本の名前と面白いところなどを書く簡易なものである。

1枚目はクラス全員がもらえるように隣の席の児童に書き、おすすめされた本は必ず読むように指導した。異学年の児童から読書郵便が届くととても嬉しそうで、自分からも意欲的に読書郵便を書いている児童も多かった【写真2】。



【写真2：読書郵便投函】

イ 異学年間の読み聞かせ

図書祭り期間に、1年生は6年生に読み聞かせをしてもらった。6年生は事前に本を選び、練習をできていたので、スラスラと読み、声の調子を変えるなど1年生を楽しませる読み聞かせをしてくれた【写真3】。また、料理の絵本では「これ何だと思う？」などクイズ形式で読み聞かせをしたり【写真4】、読み終わった後に読んだ本のシリーズを紹介したり【写真5】など工夫してくれたので、1年生の読書に対する興味関心が高まった。その日に図書室へ1年生を連れて行くと「さっきの読み聞かせの本が借りたい。」「あの本はどこにあるの？」など読書に対して意欲的な姿が見られた。



【写真3：読み聞かせの様子】 【写真4：クイズを出す様子】 【写真5：紹介する様子】

10月の図書祭りの影響もあったのか学級の読書量だけでなく、読書が嫌いと答えていたA児の読書量にも変化が見られた。以下が月別の図書貸し出し冊数である。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
学級	791	653	170	40	456	845	665	340
A児	14	2	2	2	5	27	10	5

(4) 6年生に読み聞かせ

これまで読んだ本の中から、面白かった本を選んだ。また、事前に読み聞かせをする際の本の持ち方や目線を指導したので、他者を意識した読み方をするようになっていった。実際に6年生を前にすると緊張して声が小さくなったりしたが、6年生が優しく声をかけてくれたおかげで全員が読み聞かせをすることができた【写真6】。また、読むことが苦手なD児は足が震え、1回目は読むことができなかったが、教師と一



【写真6：読み聞かせの様子】

緒に読むことで最後まで読むことができ【写真7】、次のグループでの2回目の読み聞かせは1人ですることができ、自信をつけたようだった【写真8】。



【写真7：D児1回目の読み聞かせの様子】 【写真8：D児2回目の読み聞かせの様子】

ア 1年生の児童の感想（原文はひらがな）

	読み聞かせをした感想
A児	ドキドキしたけど一生懸命行動しました。恥ずかしかったけど頑張りました。
B児	ぼくは、緊張したけど勇気を出したので読めました。本が大好きになりました。
C児	ぼくは、緊張したけど最後まで頑張れて良かったです。難しかったけど頑張れて良かったです。また行きたいです。
D児	難しかった。
E児	私は読み聞かせをするのは初めてでした。私はとても面白かったし、楽しかったです。
他の児童	<ul style="list-style-type: none"> ○ 恥ずかしかったけど6年生が拍手をしたから元気をもらって読めたし、また読みたいと思いました。 ○ 最初は緊張したけど、後からだんだん楽しくなってきた、いっぱい読みたいと思いました。 ○ ぼくは6年生がした読み聞かせが大変なことが分かりました。今日ぼくが6年生にしたら難しかったです。でも、楽しかったです。同じ学年で本も同じでまたやりたいです。

イ 6年生の児童の感想

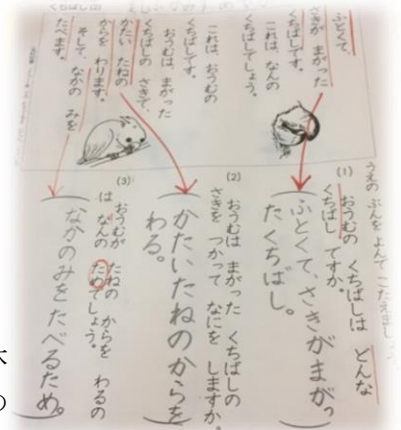
読み聞かせをしてもらった感想
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生のみなさん、昨日は読み聞かせありがとうございました。みんなの読み聞かせに6年生も自然と笑顔が増えました。とても楽しかったです。 ○ まだ1年生なのにとってもすらすら読めていてとてもすごいと思いました。多分、私たちよりも上手に読めていたんじゃないかなと思います。でも、緊張のせいかな声が少し小さく、聞き取りにくいところもあったので、自信をもってはっきりと大きな声で読むともっと上手に読めると思います。みんなが頑張って読んでいる姿もとてもかわいくとても癒やされました。 ○ 読み聞かせをしてくれた1年生のみなさんはスラスラと文字を読んでいて声が大きく、聞き取りやすい人もいました。みんな一生懸命本を読んでいてとても頑張って練習したんだなと思いました。みんな緊張しているにも関わらず、とてもはきはきしていてすごいと思いました。読み方はゆっくりでも、6年生の顔をちらちら見せてくれて嬉しかったです。とても良い経験になりました。ありがとうございました。 ○ みんなとってもうまくて1年生が読んでいるとは思いませんでした。声がハキハキしていてとても聞き取りやすかったです。本の絵の部分もしっかり見えたので、すごく面白かったです。すごく練習したんだなと思いました。ありがとうございました。

3 国語科の授業の工夫

(1) 読み取りのスキル

読む力を育成するためには、読み取るポイントを押さえないと考えると、国語の時間に読み取り方を指導した。実際に指導した読み取り方は、「①心の中で文章を読む」、「②心の中で問題を読む」、「③文章中の答えの文に線を引く」、「④線を引いたところを矢印で解答欄に引っぱる」、「⑤答えを解答欄に書く」の5段階である【写真9】。

学級懇談や通信で保護者にも説明したことで、日々の宿題や夏休みの問題集など家庭でも、このスキルを活用してもらい、読む力の育成に家庭と連携して取り組むことができた。



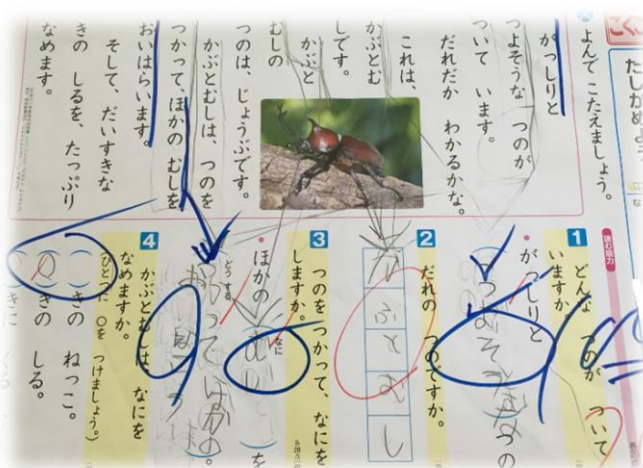
【写真9：読み取り方】

(2) 児童の日記を活用

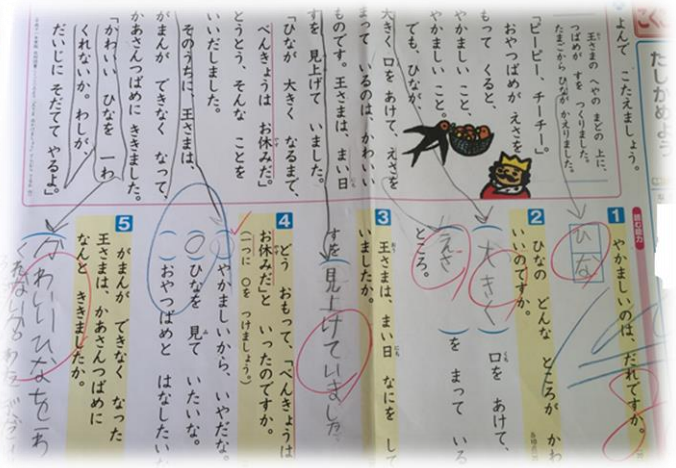
読み取りの問題に意欲的に取り組めるように、夏休みの児童の日記を活用した問題を作成した。その際、誰が、いつ、どこで、何をしたかがしっかり押さえて書けている児童の日記を選んだ。友達の日記ということで、児童は興味をもって問題に取り組んでいた。また、「今日は誰の問題かな？」と楽しみにしており、自分の日記が問題に採用された児童はとても嬉しそうだった【写真10】。7月から継続的に読み取りの問題に取り組んだことで児童の読み取りに変化が見られた。



【写真10：喜ぶ児童の様子】



【写真11：7月のテスト】



【写真12：12月のテスト】

上の写真はE児のテストである。7月は抜き出せなかったり、必要のない言葉を抜き出したりしていたが【写真11】、12月には、線を引いて矢印を引き、正しい答えを書けるようになった【写真12】。12月のテストの学級の平均点は、87。7点で最低点は60点で1人いた。7月のテストが20点だった3人も1人は80点、2人は70点と平均点を下回るが、全体と大きく離れた結果ではなかった。読み取る力が少しずつついてきた成果だと考える。

(3) 個別指導の工夫

ア ひらがなカード

D児は1学期の時点で45個のひらがなを読めていた。家庭でも毎日読み声に取り組んでいたが、文章をスラスラと読むことができなかった。2学期には、特別支援学級の担任に相談し、ひらがなカード【写真13】を使った読む練習に毎日家庭で取り組んでもらった。D児は絵カードと言葉をマッチングさせて、すぐに読むことができ、ひらがなのみのカードも、繰り返すうちにひらがなの一音一音が読めるようになった。



【写真13：カード】

イ 挟み読み

ひらがなが読めるようになり、次のステップとして文節で読めるようになることが大切であると考え、特別支援学級の担任に再度相談した。1年生の教科書は文節ごとに隙間が空いているので、その隙間を指で挟みながら読むことをアドバイスされた。初めは教師が指で挟んで、その部分を読む練習をした【写真14】。慣れてくるとD児が自分で挟みながら随分と読めるようになった【写真15】。練習問題の読み取りが難しい時には、隣の席の児童と一緒に挟み読みをして、D児にヒントを出してくれた【写真16】。挟み読みに取り組んだことで、D児はこれまでの読み方が嘘のように文節ごとに文章を読むことができるようになった。



【写真14：教師と挟み読み】



【写真15：一人で挟み読み】

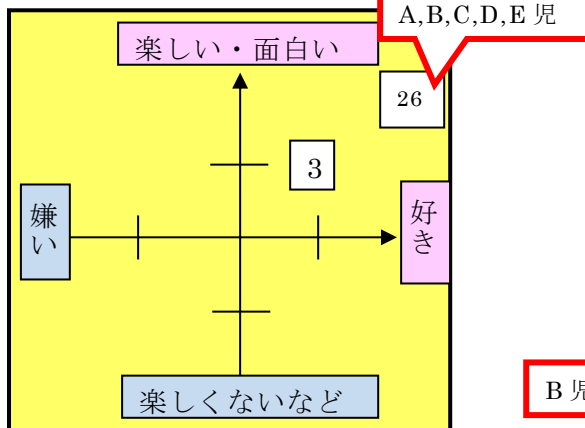


【写真16：友達と挟み読み】

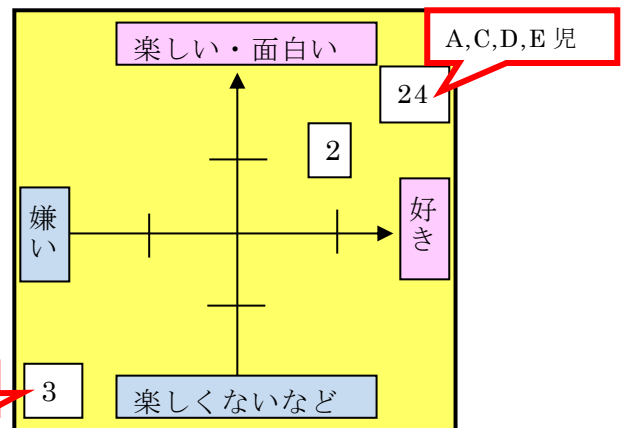
VII 成果と課題

(1) アンケート結果

① 読書は好きですか。



② 勉強は好きですか。



7月と同様のアンケートを12月にも実施したところ、12月には学級29名全員が読書が「好き」または「どちらかというが好き」と答えていた。それぞれの児童の実態は、次のとおりである。

- A児は、読書が嫌いと答えていたが、「勉強と一緒に面白い」から「好き」と変化した。
- B児は、7月と変化がなかった。
- C児は、7月には「どちらかという勉強は嫌い」と答えていたが、「賢くなるから」勉強は「好き」と変化した。
- D児は、読みに苦手があるものの7月は「勉強はどちらかというが好き」と答えていたが、「勉強は好き」と答えており、理由も「できるから」から「楽しいから」と変化した。
- E児は、読書は「好き」と答えており、読書に対する姿勢が学級の中でも大きく変化した。

(2) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 友達同士で互いに興味をもっている本を交流し合ったり、読書郵便や異学年間の読み聞かせ、クイズ等、児童が本と楽しく関わる機会を意図的に設定したりすることで、学級全員が読書の楽しさと読むことへの関心を高めることができた。
- 教師と保護者が家読のねらいを共有し、家庭でも本に関わる機会を設定することで、学級全員が読むことへの関心を高めることができた。
- 線や矢印を用いて読み取るスキルを、児童の日記を活用するなどの工夫を行いながら継続的に指導したことで、読み取りが苦手だった児童にも力がついてきた。
- 特別支援担当のアドバイスを受けながら、カードの利用や挟み読みなど、実態に合った具体的な手立てを取ることで、読むことが苦手だった児童の読む力が伸びてきた。
- 定期的かつ多面的に実態を把握しながら、できるだけ個に応じた手立てを工夫することで、今後は全員の読む力の育成に努めていきたい。

○ 参考文献

学習指導要領解説国語編

「読書で心を磨く桜っ子」埼玉県三郷市立桜小学校 読書活動関係資料

○ 研究同人

所長	今村 卓也 (教育長)	研究員	四位 久伸 (東郷中学校教諭)
副所長	塩月 勝比呂 (学校教育課長)	事務局	高森 賢一 (学校教育課長補佐)
研究員	雨崎 雄 (富高小学校教諭)	事務局	渡 勝 (学校教育課長補佐)
研究員	土山 秀子 (日知屋小学校教諭)	事務局	今城 真美 (学校教育課教育指導係長)
研究員	深水 彩加 (財光寺小学校教諭)	事務局	岩原 教昌 (学校教育課指導主事)
研究員	清原 のぞみ (大王谷小学校教諭)	事務局	村社 弘之 (学校教育課指導主事)
<p><日向市教育研究所のその他の研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「『読む力』を高める国語科指導の在り方 ～読書活動を取り入れた授業づくりを通して～」 ○ 「国語科における児童の豊かな読解力や表現力の育成を目指して ～効果的なNIEの在り方を通して～」 ○ 「読み方の質を高める国語科指導の在り方の研究 ～作品の主題をつかませることを通して～」 ○ 「『読書の質を高める』という視点を取り入れた読書活動の充実に向けた指導の工夫 ～教科等の指導を通して～」 			